平成２２年度事業計画書（案）

（平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで）

Ⅰ．公益事業

１．学術講演会の開催（定款第４条第１号）

第 106 回日本精神神経学会学術総会として、山脇成人会長のもとに、平成 22 年 5 月 20 日（木）、21 日（金）、22 日（土）の 3 日間、広島国際会議場（広島市中区中島町 1-51）・アステールプラザ（広島市中区加古町 4-17）において、下記の学術講演会を開催する。

記

基本テーマ：「求められる精神医学の将来ビジョン：多様な領域の連携と統合」

Ⅰ．会長講演

山脇成人：求められる精神医学の将来ビジョン：うつ病の教育・診療・研究を通して考える

Ⅱ．特別講演

佐藤光源：疾患概念と精神医療・保健福祉－発症脆弱性を中心に

Ⅲ．シンポジウム

１．一般医療と連携する精神科医療(総合病院精神科)の新しい動向（４題）
２．精神医学の未来を切り開く大学院教育はこれでよいのか！（６題）
３．認知症研究の最近の進歩、三学会それぞれの立場から認知症を極める（５題）
４．摂食障害：病態・診断・治療の最前線（4題）
５．ＯＣＤの病態仮説と治療理論（５題）
６．精神医療とペットの関わり(アニマル・セラピー)（5題）
７．最近のうつ病の病型と治療（4題）
８．認知行動療法と社会との接点（5題）
９．性同一性障害をめぐる諸問題（5題）
10．統合失調症の思春期病態と早期介入（4題）
11．処方監査：透明性の高い精神医療に向けて（7題）
12．精神科専門医取得のための研修にかかわる問題点（５題）
13．産業医学への理解を深める－精神科医として具備すべき知識と技術（４題）
14．修正型電気けいれん療法(mECT)－地域連携・麻酔科との連携をどのように行うか－（6題）
15．精神科医との協働－－事例を中心に（5題）
16．発達障害の思春期、青年期の診断と医学的ケア－（5題）
17．精神科日常臨床における利益相反－医師と企業のつきあい方－（4題）
18．自殺予防と精神保健医療の役割（5題）
19．活用SST—医師が知っておきたいSSTの適応と効果（5題）
20．気分障害の生物学的理解の最前線（5題）
21．がん医療において精神科医に期待されるもの（4題）
22．急性精神病治療における診断概念と実践の懸隔（5題）
23．精神科デイケアによる再発予防と生活支援－統合失調症のコミュニティケアの発展のために－（4題）
24．児童青年精神科と精神科の接点－さまざまな疾患を中心に－（４題）
25．日本の精神科医療を展望する—精神科救急の立場から—（４題）
26．精神障害が併存するアルコール依存症の病態と治療（5題）

27. パーソナリティ障害の診断と精神分析的精神療法（４題）
28. 統合失調症の社会復帰～ＱＯＬの向上を目指したバイオ・ソーシャルな取り組み～（４題）
29. 精神疾患に併存する睡眠障害の診断と治療（5題）
30. 日本のＡＣＴ：各地で行われているＡＣＴの成果の現状（６題）
31. 精神科医の社会への関わり－診察室の外で精神科医に求められていること（６題）
32. 医療観察法の存続は可能か－見直しの年を迎えて－（４題）
33. 今後の精神医療保健福祉はどうあるべきか（５題）
34. 若手医師に伝えたい面接技術を考える（６題）
35. 心理職とのこれからの協働を考える（５題）

Ⅳ. 教育講演

1. 村井　俊哉：精神科の立場からの高次脳機能障害の臨床
2. 鹿島　晴雄：前頭葉機能の新しい神経心理学的検査法
3. 塩入　俊樹：不安障害の病態について：Stress-induced fear circuitry disordersを中心に
4. 池田　　学：老年期うつ病と認知症の関係
5. 中込　和幸：統合失調症の認知機能障害に対する心理社会的アプローチ（仮）
6. 樋口　輝彦：うつ病医療の入り口と出口－診断とリハビリをめぐる諸問題－
7. 飯森眞喜雄・丸田　敏雅：ＩＣＤ－11作成の動向
8. 水野　雅文：統合失調症の早期発見と治療予後
9. 飛鳥井　望：認知行動療法（PE療法）によるPTSD治療―日本におけるエビデンスと被害者ケア現場での実践応用
10. 松岡　洋夫：てんかん特異的な精神症状の新たな理解－国際分類（ILAE）案をめぐって－
11. 酒井　明夫：双極性（感情）障害の精神医学史
12. 青木　省三：成人期の発達障害を考える
13. 伊豫　雅臣：医療観察法について
14. 宮岡　　等：うつ病の地域連携診療システム構築をめざして－プライマリケアにおける対応から重症例に対する専門的治療まで－
15. 寺尾　　岳：双極性障害の診断と治療
16. 加藤　　敏：統合失調症の診断の吟味―精神病理学の見地から
17. 上野　修一：個性を考えた抗精神病薬の使用法　分子薬理学的アプローチアップートゥーデート
18. 尾崎　紀夫：社会復帰に繋げるうつ病治療：真のrecoveryを目指して
19. 大森　哲郎：認知機能とQOLを視野に入れた統合失調症の薬物療法
20. 橋本　隆紀：死後脳からみた統合失調症の病態
21. 須原　哲也：脳の機能と病理は生体でどこまで画像化できるか
22. 朝田　　隆：認知症の生活障害の考え方と科学的取り組み
23. 丹羽　真一：精神科臨床に脳波を生かす

Ⅴ. 専門医を目指す人の特別講座

1. 内山　　真：精神科臨床に必要な睡眠障害の知識
2. 渡辺　義文：身体表現性障害の診断と治療
3. 神庭　重信：双極性スペクトラムの概念を整理する
4. 兼本　浩祐：てんかん医療にとって精神科医は必要か 精神科医にとってててんかん診療技術は必要か
5. 齊藤万比古：児童思春期精神障害
6. 石郷岡　純：統合失調症の薬物療法：ドパミンD2受容体遮断薬はなぜ統合失調症の治療薬たりえるのか
7. 西村　良二：精神療法の基本と応用
8. 伊藤順一郎：地域生活中心の精神保健医療福祉のありかた－ACT（Assertive Community Treatment）を含む精神科医療の考え方－
9. 上原　久美・縄田　秀幸：プレゼンテーション・スキルの向上を目指して

Ⅵ. 先達に聴く

1. 笠原　　嘉：精神神経科と私－50 年をふりかえって

２．黒澤　　尚：右手に学問を！左手に精神科医の地位の向上を！
３．高橋　清久：睡眠学の確立に向けて
４．山口　成良：臨床神経生理学の重要性に関して―ヒトの脳波の発見から 80年を経て
５．木村　　敏：精神医学における間主観的意識の回復へ向けて
６．融　　道男：精神疾患の神経伝達をめぐって
７．細川　　清：てんかん診療と精神科―包括医療における精神科医の関与の必要性―

Ⅶ．精神医学研修コース
１．ここまでわかった精神疾患の脳内メカニズム
２．精神科診療で知っておくべき神経画像：所見の見方と診断
３．裁判員制度における精神鑑定実務
４．精神科外来診療における認知行動療法講座
５．認知症医療－鑑別診断から介護・ケア・地域連携まで－
６．症例から学ぶ：精神分析スーパービジョン
７．ベテランにきく精神科リエゾンワークのコツ
８．児童・思春期患者における精神科薬物療法の実際

Ⅷ．国際シンポジウム
１．「Post-graduate training programs to curve a good psychiatrist;dealing with the expanding subspecialties」（7題）
２．「How is depression treated in your country? - Comparative case discussion-」（7題）

Ⅸ．一般演題（口演・ポスターを含む）（285 題）

Ⅹ．受賞講演
１．精神医学･医療奨励賞
２．フォリア賞

ＸＩ．市民公開講座
１．野村總一郎：明日は我が身：うつ病の正しい理解
２．山田　洋次：寅さんとメンタルヘルス

２．機関誌および学術図書の刊行（定款第４条第２号）
・「和文誌－精神神経学雑誌」：第 112 巻第 4 号から第 12 号までおよび第 113 巻第 1 号から第 3 号までの 12 号分（1 号平均 160 頁）を刊行する。発行部数は各 14,700 部。
・「Psychiatry and Clinical Neurosciences」：Vol.64 の 6 号分（1 号平均 135 頁）を刊行する。発行部数は各 600 部。

３．その他目的を達成するために必要な事業（定款第４条第３号）
(1) 各種委員会を設置し、各所管の事項を審議し、それにもとづいた活動を行なう。
(2) 国際組織など［世界精神医学会（ＷＰＡ）その他］との連絡および国際学術交流に関する事業。
(3) 情報に関する事業：インターネット・ホームページでの情報提供を行う。
(4) 「精神医学・医療奨励賞」の授賞を行う。
(5) 「フォリア賞」の授賞を行う。
(6) 精神科専門医制度に関する事業を行う。
(7) その他

Ⅱ．収益事業

１．出版事業（定款第４条第２号の一部）
（１）「日本精神神経学会百年史」の販売をする。
（２）「ＷＰＡコンセンサス・ステートメント 第二世代抗精神病薬」の販売をする。
（３）「精神神経学用語集」改訂６版（2009）を出版・販売をする。

以上